

《試験方法》

碎石舗装の経年による陥没部。水溜りの水を利用してEAGLE8による穴埋めを行った。



《写真①》

実験前の陥没部。水溜りの水を利用して打設を行う。実験は左手前の小さな陥没部0.3㎡深さ25mmの箇所で行なった。



《写真②》

EAGLE8散布状況。打設容積7.5ℓ比重2から使用量は15kg 水溜りの水をスコップで万遍なく混ぜる。スコップに張り付く程度の粘りまで練る。



《写真③》 練り開始から15分後、表面温度50°C順調に硬化。気温30°C、打設面温度(水温)26°C、材料温度30°C

《写真④》

打設30分後。軽トラックで通過しても割れ無し。



機材が不十分な災害復旧現場などを想定して実験を行った。
EAGLE8は材料と水を適量混練りすることにより、反応・硬化する。
 機材電気などが無い条件でも、大まかな水分量計測と練り上がり状態の目視で打設可能である。

《試験方法》

アスファルト舗装の経年による亀甲型ひび割れ部。EAGLE8-Hを混練りせず撒布と霧吹による水分供給による補修を行った。



《写真①》

劣化したアスファルト舗装



《写真②》

EAGLE8散布状況。



《写真③》 霧吹による、水の撒布。表面から染み出る程度に散水。



《写真⑤》

打設2時間後。均していない為、表面の凹凸や水分吸収時の模様はあるが硬化している。



《写真④》

打設2時間後。ハンマーで打検。欠け・飛散は見られない。